Akebia pentaphylla Makino var. **integrifolia** Y. Kimura, var. nov. —— Probabiliter hybrida inter *Akebia quinata* et *A. trifoliata*; foliis *A. quinatam* affinibus, 5-lobatis, margine integribus, non crenatis; floribus potius *A. trifoliatam* affinis, dilutius coloratis et leviter majoribus. Flos femineus 3-perianthianus, *A. pentaphyllae* (*typicae*) similans, sed rubescentior coloratus, pedicello breviore et ab axe inflorescentiae rectangulariter eminente. ——Nom. Jap. *Kuwazome-Akebi* (nov.) —— Hab. Hondo, Pref. Nagano, Karuizawa, Sengataki (Y. Kimura, 30. Maio 1948 ——in Herb. Univ. Tokyo.)

○靜岡縣羊齒フローラに加ふ (原田利一)

Mecodium flexile Copeland オホコケシノブ

伊豆淨蓮瀧下流に點在。紀伊半島，四國，九州，臺灣島に産するコケシノブ科の暖地性小羊齒。

Adiantum capillus-veneris Linnaeus ホウライシダ

暖地から熱帶に亙つて廣く分布し，我が國では神奈川縣の海岸，伊豆諸島，四國，九州に産するが，韮山中學校生徒平野日出雄君は熱海市伊豆山で之を採集した。

Athyrium Sheareri Ching ウラボシノコギリシダ

近畿以西，四國及九州の諸地。千葉縣清澄山，中支那等では以前から知られてゐたが，筆者及大仁町の鈴木柳氏等は田方郡大仁町鈴尾神社境內及庵原郡梅ケ谷で之を採集した。短い鈎狀の包膜は一見 *Dryopteris* 屬の圓腎形包膜に似てゐるので，元は *Dryopteris polypodiformis* C. Christensen の學名が與へられてゐた。

Diplazium Mettenianum C. Christensen var. *typicum* Tagawa ミヤマノコギリシダ

四國，九州，琉球，臺灣島，南支那，比島等に分布する暖地性羊齒。韮山中學校小早川喜代作教官は伊豆淨蓮瀧附近で採集した。

Diplazium nipponicum Tagawa オニヒカゲワラビ

九州，四國及紀伊半島の比較的寒冷な山地，山陰，北陸の山地で知られてゐるやゝ大形の羊齒。筆者は天城山彙桐山山中で採集した。シロヤマシダ *Diplazium hachijoense* Nakai によく似てゐるが，子囊群が中軸に接近して並ぶので區別される。

Diplazium Okudairai Makino イヨクジヤク

愛媛縣岩屋山，山口縣狗留孫山，奈良縣室生山の三山がその產地として知られてゐたのみだが，伊豆天城山彙桐山山中にも採集された。前記ミヤマノコギリシダに似てゐるが，葉質は非薄で，子囊群はミヤマノコギリシタ程羽軸に接近してゐない。採集者は韮山中學校生物班一行。

Dryopteris Sieboldii O. Kuntze オホミツデ，ナガサキシダ

紀伊半島，四國，九州地方及千葉縣清澄山では以前から知られてゐたが，筆者及同行の韮山中學校生徒櫻井正樹君は庵原郡梅ケ谷でも採集した。海外では臺灣島にも産する。

Lindsaya orbiculata Mettenius エダウチホングウシダ

暖地には比較的廣範圍に分布してゐるが，靜岡縣内では初めて見出されたのではなからうか？。小早川喜代作氏が小笠郡小笠山で採集した。

Polystichum pseudo-Makinoi Tagawa サイコクキノデ

和名の示す通り近畿以西に多いが，天城山彙中にもカタキノデ *Polystichum Makinoi* Tagawa と混じて散見する。子囊群が小羽片の邊緣近く並ぶことと，鱗片がやゝ軟いこと等でカタキノデと區別される。

Lycopodium Sieboldii Miquel ヒモラン，イハヒモ

九州，琉球の諸地に點々と分布し，長野縣で稀に見出されるヒカゲノカヅラ科の懸垂性羊齒。韮山中學校生物班一行は天城山麓茅野部落附近で採集した。筆者も採集者の一人平野君の案内で現場に赴いてみたが，本谷川に臨んだリウキウマメガキの大木に 10 cm 許のもの 2 株を見出したのみ。

其他，ヒロハアツイタ *Elaphoglossum tosaense* Makino (10 數年前，故緒方正資氏採) が伊豆淨蓮瀧下流に極く少數現存し，マツバラン *Psilotum nudum* Beauvois var. *gracile* Spring (南伊豆の採品あり) が田方郡大仁町城山の峨々たる火成岩の岩罅中に群生してゐる。尙又，故 Urbain Faurie 師が伊豆湯ヶ島では初めて採集したもので，紀伊半島・四國，九州に分布するミドリカナワラビ *Rumohra nipponica* Ching も天城山彙中に點々と生育してゐる。

○斑入葉の一例 (津山　尙)

碓氷峠の東上州横川町南方の丘でガマズミの葉が小型になつた一品，中井先生の所謂ハコネガマズミを採集した。その木は高さ60cm位の幼木で，奇妙な事に凡ての葉が挿入圖の樣に斑入になつてゐた。黑く描かれてゐる所は，實は全く透明であつて，その部には同化組織が全くなくなつてゐて表裏の表皮のみからなつてゐるために薄くなつてゐる。よく見ると透明部分は葉肉を有する正常部からせり出して來た同化組織の圓孤で取り圍まれてゐることが判る。葉脈の間にのみ現はれるかゝる斑入現象はアラカシの一品ヨコメガシ (橫目樫又の名，永縞しま樫) にも見られるが，幼葉が葉脈と葉脈の間に於て交互に疊まれる所の摺襞に關係があるのであらう (たとへそれが病原菌の感染によるか其の他の生理的現象によるとに關らず)。尙本品はあまりに齊一にこの斑を表はしてゐるので，病原菌の一時的の寄生によるものとは考へず多分に固定したものと考へる。